

製品安全データシート

(JIS-Z 7253:2019準拠)

(GHS-改定第6・7版)

作成日 2023年12月6日

改定日:2024年11月15日

1 製品及び会社情報

製品名

NEW TE-C エンジン燃焼室用オイル

用途: 市販ガソリンまたは経路に添加する潤滑剤

用法: 市販ガソリンまたは経路に規定量添加する

会社

ジーアールピー株式会社

東京都品川区西五反田5丁目4番5号 郵便番号141-0031

電話 03-3490-6915(代)

FAX 03-3490-6694

メールアドレス: grp.co.ltd@nifty.com

緊急連絡先: 営業技術担当 月曜日～金曜日 08時30分-18時30分

MSDS整理番号

20211050/1/2

2 危険有害性情報



GHS分類

物理化学的危険性

区分に該当しない

健康有害性情報

急性毒性(吸入-ミスト)

区分4

急性毒性(吸入-蒸気)

区分4

眼に対する重篤な損傷性

区分2B(表示マーク: なし、喚起語: 警告)

眼刺激性

危険有害性情報: (H320)眼刺激

発がん性

区分に該当しない

生殖毒性

区分に該当しない

特定標的臓器毒性(単回暴露)

区分に該当しない

急性試験による特定臓器への単回暴露毒性は認められない。
(ECHA 基準)

特定標的臓器毒性(反復暴露)

区分2 (表示マーク: 「健康有害性」 喚起語: 警告)

危険有害性情報: (H373)長期にわたるまたは
反復暴露による臓器の障害の恐れ(ミスト吸入)

環境有害性

水性環境有害性(急性)

区分に該当しない

水性環境有害性(長期間)

区分4 危険有害性情報:

注意喚起語「なし」

(413)長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ

オゾン層への有害性

分類できない

GHSラベル要素:

- シンボル: 表示マーク: 「腐食性」、「健康有害性」、「環境」
- 注意喚起語: 「警告」
- 危険有害性情報: * 眼に対する重篤な損傷性または眼刺激性 区分2B
注意喚起語 「警告」 (H320)眼刺激
- * 特定標的臓器毒性(反復暴露) 区分2
注意喚起語 「警告」
(H373)長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害のおそれ
- * 水生環境有害性長期間分類 区分4
注意喚起語 「なし」
(413)長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ

その他の有害性情報

主な兆候: 飲み込むと下痢、嘔吐をする場合がある。

注意書き

- P202: 注意書きを理解するまで取り扱いをしないこと
- P260: ミストを吸引しないこと
- P301/310: 飲み込まないこと。飲みこんだ場合は医師に相談すること。
- P264: 取り扱い後は手指をよく石鹼で洗うこと
- P271: 作業は換気の良い場所にて行うこと
- P280: 保護手袋、保護眼鏡、など保護具を用いること
- P304/340: 吸引した場合は空気の新鮮な場所に移し休息させること
- P403/233: 冷暗所に保管すること
- P501: 廃棄は指定業者に任せること

3 組成・成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	合成石油系炭化水素(高度精製油)及び潤滑油諸添加剤
別名	エンジン燃焼室用オイル
化学特性	企業秘密により公表不可

主な成分

高沸点芳香族ナフサ
軽質芳香族石油ソルベントナフサ
ナフタレン
1,2,4-トリメチルベンゼン

官報公示整理番号

GHS危険有害成分情報	有用情報なし
労働安全衛生法	令別表第9の330 石油ナフサ(高沸点芳香族ナフサ並びに 軽質芳香族石油ソルベントナフサ)
化審法	4-311 ナフタレン 3-7, 3-3427 1,2,4-トリメチルベンゼン
化管法	第一種 1,2,4-トリメチルベンゼン

4 応急処置

- 吸入した場合 新鮮な空気の場所に移し、気分が悪い場合は身体を保温して安静にし、必要であれば医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 石鹼を用いて温水で良く洗う。

目に入った場合	清浄な温水で良く洗い、刺激性の残る場合は医師に相談する。
飲み込んだ場合	無理に吐かせず温水で口を良くすすいでから医師に相談する。
最も重要な徴候及び症状	飲み込んだ場合は下痢や嘔吐をする場合がある。 目に入った場合は炎症を起こす場合がある。 ミストを吸入すると気分が悪くなる場合がある。
応急措置をする者の保護	特定事項なし
医師に対する特別注意	特定事項なし

5 火災時の措置

使用可能消火剤	泡沫又は粉末消火剤、又は二酸化炭素、炭酸ガス消火剤。 大規模火災には泡沫消火剤を用いる。
使用禁止消火剤	水を放射する消火器は火災を拡大させる危険がある。
火災時の特有危険有害性	燃焼すると酸化窒素性ガス、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が発生するので煙を吸わないこと。
特定の消火方法	火元近くの燃焼源を取り除き付近を散水によって冷却すること。 消火作業は風上から行い耐熱防具や呼吸保護具などを着用のこと。
消火を行う者の保護	耐熱防具や呼吸保護具などを着用のこと。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項	作業の際に消火用保護具並びに保護眼鏡等を着用する。 消火器を付近に用意すること。
環境に対する注意事項	漏出物が河川、下水等に排出されないように処置すること。
除去方法	付近の可燃物を取り除き、少量の場合は土砂、ウエス等で吸収させ回収する。大量の場合は漏洩液を土砂などで隔離し空き容器などに回収する。海上にて漏出の場合はオイルフェンスを用いて隔離、吸収マット等にて吸い取る。
二次災害の防止策	更なる事故の防止、及び拡大防止のため速やかに関係機関に連絡する。 同時に火災防止のため付近の着火源や可燃物を取り除く。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	炎、火花または高温体との接触を避ける。 静電対策を適切に講じ着衣、靴など導電性の物を用いる。 作業は換気の良いところで行う。 容器からの取り出しはポンプを使い、口からのサイフォンなどはやらないこと。 作業には万一のため保護具を用いる事。 ミストが発生する場合は呼吸器保護具を着用の事。 容器は必ず密閉すること。
局所換気・全体換気	通常は特別に換気は必要ないが蒸気化する環境では蒸気は滞留しやすいので換気及び火気には注意することが必要である。
注意事項	室温で作業・保管をすること。不必要な加熱はしないこと。 作業中に異物、水分等の混入をさせないこと。 ハロゲン類、強酸物質、などとの接触を避ける事

保管

適切な技術対策 使用する電気器具は防爆仕様とし接地を忘れないこと。

適切な保管条件

直射日光を避け換気の良い場所を選ぶこと。

消防法による危険物であることを明示し法規制に基づき保管すること。

火気、漏電、静電気蓄積などの可能性を避けた場所に保管すること。

安全な容器包装材料

長期保管には金属容器を用いること。

8 暴露防止及び保護措置

設備対策

取扱作業は換気装置が設置されている涼しい場所にて行う。

取扱作業近辺及び保管場所近辺から火気を取り除くこと。

取扱作業場近辺に手指の洗浄のための設備を設けることが望ましい。

管理濃度

許容管理濃度(ミスト)

ACGIH (米国産業衛生学会)

TWA 時間加重平均 5mg/m³

STEL 短時間暴露限界 10mg/m³

保護具

呼吸器用保護具

通常は不必要。必要な場合は有機ガス用防毒マスクを使用。

手の保護具

長期に亘る反復接触の場合は耐油性保護手袋を使用。

目の保護具

飛沫が飛ぶ場合は普通眼鏡、又は保護眼鏡を用いる。

皮膚及び身体の保護具

長期に亘る反復接触の場合は耐油性長袖作業服などを着用する。

9 物理的及び化学的性質

外観

液体

臭気

微臭

pH

該当しない

融点・凝固点

融点 データーなし 凝固点 データーなし

沸点

データーなし

引火点

100°C以上 (COC法)

自然発火点

データーなし

燃焼・爆発範囲

データーなし

蒸気圧

データーなし

溶解性

水に対する溶解性: 不溶解

分解温度

データーなし

10 安定性及び反応性

安定性

安定物質

危険有害反応可能性

強酸化剤及び発火物質との接触

避けるべき条件

強酸化物質、ハロゲン類、火気との接触を避ける

混触危険物質

強酸化物質、ハロゲン類、火気との接触を避ける

危険有害分解生成物

燃焼の際は酸化窒素性ガス、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。

11 有害性情報

急性毒性

LD50 ラット 経口 15000mg/Kg以上

LD50 ラビット 経皮 6000mg/Kg以上

LD50 ラット ミスト吸入 218mg/L以上

皮膚腐食・刺激性

長期に亘る反復の接触は炎症を起こす場合がある

眼性損傷・刺激性

眼に入った場合は炎症を起こす場合がある

呼吸器感作性・皮膚感作性	呼吸器感作性についての有用試験データなし。 皮膚感作性はOECD 406 によるテストで感作性なしとの結果を得ている。
生殖細胞変異原性	有用な試験データなし
発がん性	当製品使用鉱油はNTP(NTPIARC)及びOSHA には分類3に属し勧告発がん性物質ではない。 EUでは本製品に使用している鉱油は発がん性物質としての分類は不要と評価されている。 (NTPIARC: National Toxicology Program International Agency for Research on Cancer) (OSHA: Occupational Safety and Health Administration)
生殖毒性	定量データなし
特定標的臓器毒性(単回暴露)	ECHA 基準による急性単回暴露試験において毒性は認められていない。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	長期にわたる反復暴露は臓器に有害なおそれがある。
吸引性呼吸器有害性	ミストなどが発生した場合はそれを吸引しないようにすること。
その他の注意事項	飲み込むと嘔吐や下痢を起こすことがある。 目に入ると炎症を起こす可能性がある。 ミストを吸うと気分が悪くなることもある。

12 環境影響情報

生態毒性	定量データなし
残留性・分解性	生分解はしない。
生体蓄積性	定量データなし
土壌中の移動性	移動性なし
その他の有害影響	特になし

13 廃棄上の注意

廃油は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託すること。
環境への排出、投棄などをしてはならない。
簡易燃焼炉による焼却処理は有害ガス排出などの可能性があり推奨できない。

14 輸送上の注意

国際規制	
国連分類	該当せず
国連番号	該当せず
輸送関連法	IMDG (海上輸送) IATA (航空輸送)
規制	海上輸送・航空輸送共に非危険物扱い (DOT及びTDG規制非該当) DOT: Department of Transport TDG: Transport of Dangerous Goods
国内規制	
消防法	:危険物 第4類第3石油類
毒劇物取締法	非該当
船舶安全法	非危険物 (バラ積み法)
航空法	非危険物
容器	危険物の規制に関する規則別表3の2に準ずること。

- 容器表示

1. 品名： エンジン燃焼室用オイル
2. 第4類第3石油類 危険等級Ⅲ
3. 数量(リッター)
4. 火気厳禁

積載方法

消防法に則り適切に輸送すること
発火性物質、高圧ガスなどと混載しないこと。

15 適用法令

労働安全衛生法 令別表第9の330 石油ナフサ(高沸点芳香族ナフサ並びに
軽質芳香族石油溶剤ナフサ)

化審法	4-311 ナフタレン 3-7, 3-3427 1,2,4-トリメチルベンゼン
化管法	第一種 1,2,4-トリメチルベンゼン
消防法	危険物 第4類第3石油類 危険等級Ⅲ
海洋汚染防止法	油分排出規制
水質汚濁防止法	油分排出規制
下水道法	鉱油類排出規制

16 参考資料

JIS Z 7252: 2019 JIS Z 7253: 2019

許容濃度の勧告 (日本産業衛生学会)

ACGIH 2001及び2004

IARC 1984及び1987

GHS 対応ガイドライン(改定2版)日本規格協会

GHS の挑戦 (化学工業日報社)

GHS対応MSDS作成指針改定版 (日本化学工業会)

EC 委員会指令 67/548/EEC 危険な物質リスト

化学物質等法規制便覧 (化学工業日報社)

*** 製品安全データシート(MSDS 又は SDS)は化学製品について危険有害性に注意し取り扱いを安全にするために取り扱い事業者に参加情報として供与されるものがあります。 取り扱い事業者はこれらを参考として自らの責務において適切な取り扱いをすることが必要であります ***